

提出日 2023 年 2 月 20 日

XXXX XXXX について

所 属	XX 大学 XX 学部 XX 学科 X 年
学籍番号	XX - XXX
氏 名	XX XX
講 義 名	XXXX 概論
担当教員	XX XX 教授

目次

1	序論	1
2	本論	2
3	結論	2
	参考文献	2
	付録 A ソースコード一覧	2

1 序論

L^AT_EX で美しくレポートを書くコツは、以下ようになります [1]. 教授にアドバイスされました.

- 一文ずつ, % で区切る.
- 段落を分けるときは, 空行を挿入.
- \cite や \ref の前にはチルダ「~」を挿入.
- 文字列の間に数式が入る場合, \$ 数式 \$ の前後に空白を挿入.
- 「[単位]」の前後に空白を挿入.
- アルファベットの次に日本語が続く場合, 前後に空白を挿入.

表は, 以下の表 1, 表 2, 表 3 のように挿入します. csv 形式から変換するパッケージもしくは WEB ツール^{*1}があるので, それを利用するのもいいかもしれません.

表 1 表の挿入

変数	予想	結果
x_{01}	2.11	2.38
x_{02}	1.84	1.41
x_{03}	3.22	1.34

表 2 セル内で改行する場合

説明 変数	標準偏差 [mm]	誤差 [mm]
x_{01}	2.81	0.01
x_{02}	2.20	0.11
x_{03}	1.45	0.45

表 3 セルを結合

	回帰係数		p 値	
	1 回目	2 回目	1 回目	2 回目
α_{01}	0.51	0.48	0.01	0.31
α_{02}	0.32	0.22	0.02	0.47
α_{03}	0.44	0.11	0.09	0.42

また, 数式は以下の式 (1)(2) のように挿入します.

^{*1} csv2tabular 「<https://rra.yahansugi.com/scriptapplet/csv2tabular/>」 など

$$y = \sum_{k=1}^N \alpha_k x_k \quad (1)$$

$$S(k) = \begin{cases} \exp(-j\pi k^2/N) & (0 \leq k \leq \frac{N}{2}) \\ S^*(N-k) & (\frac{N}{2} < k < N) \end{cases} \quad (2)$$

2 本論

3 結論

本実験において、***ということが分かった。

参考文献

- [1] Author, “Title”, Journal, Vol, Issue, pp. 1–2 (Year)
- [2] Author1, Author2 (編), “Title”, Publisher, (Year)
- [3] Author, “Title”, URL, (2023 年 2 月 20 日 閲覧)

付録 A ソースコード一覧

本実験において作成したソースコードを、リスト 1 に示す。

リスト 1 XXXX のプログラム

```
1 #include <stdio.h>
2
3 int main(void) {
4     printf("Hello, World!\n");
5     return 0;
6 }
```